

平成 28 年度第 2 回館林市子ども・子育て会議 会議録概要

1 日 時 平成 29 年 2 月 24 日（金）午後 3 時 00 分～ 4 時 30 分

2 場 所 文化会館 2 階 4 号室

3 出席者

【館林市子ども・子育て会議委員】 14 名

森委員、永井委員、大谷委員、角田委員、田村委員、篠塚委員、小山委員、増田委員、前山委員、川島委員、砂賀委員、小澤委員、芦沢委員、矢動丸委員（以上名簿順）

【事務局】 10 名

こども福祉課：松村課長、妻神子育て支援係長、萩本保育係長、関口係長代理、砂賀

健康推進課：武政母子保健係長

教育総務課：武井総括係長

学校教育課：川島課長、山口学事係長

生涯学習課：戸叶課長

【傍聴者】 なし

4 議 事

(1) 館林市子ども・子育て支援事業計画 平成 27 年度実績および平成 28 年度進捗状況について

(2) 平成 29 年度教育・保育施設の利用定員の設定について

(3) 来年度の予定について

・平成 28 年度実績の進行管理

・館林市子ども・子育て支援事業計画の中間見直し

(4) その他

5 配布資料

・会議次第

・館林市子ども・子育て会議委員名簿

・資料 1 館林市子ども・子育て支援事業計画 平成 27 年度実績および平成 28 年度進捗状況について

・資料 2 平成 29 年度教育・保育施設の利用定員について

6 会議内容（概要）

1. 開 会

2. あいさつ

・森会長

3. 議 事

(1) 館林市子ども・子育て支援事業計画 平成 27 年度実績および平成 28 年度進捗状況について

・事業ごとに、前回会議「第 1 回館林市子ども・子育て会議」での意見に対する改善状況及び平成 28 年度進捗状況報告後、質疑応答（主な内容）

(13) 養育支援訪問事業～ (10) 利用者支援事業

・健康推進課より説明

【質疑応答等】

委 員：事業を実施している中で、実際に虐待事例等の発見はあったのかどうか。

事 務 局：乳児全戸訪問事業では、母子保健推進員が訪問した家庭状況を必ず報告してもらっている。その時に心配、不安な家庭があった場合には、健康推進課やこども福祉課が訪問し、状況を確認している。心配な家庭が、虐待がある家庭というわけではない。心配な家庭は何件かある。

委 員：母親が心配。親に養育力がない家庭が多い。地域を見ていて、20 歳未満の母親がいる場合には、健康推進課へ繋ぐ。子どもが産まれる前の特定妊婦の時から健康推進課と連携を取っている。

会 長：東京の方は、かけこみ出産が多いよう。本当に産まれる前まで親も気付かず、病院に連れて行ったその日に出産するなど、そういう家庭を良く把握してもらっていることはとてもありがたいこと。相談支援センターほっとさんも相談が入ることはあるのか。

委 員：相談が入る場合もある。健康推進課やこども福祉課の家庭児童相談員と一緒に、家庭訪問をしたりして、母親に障害福祉サービスを提供し家庭を見守っているケースも中にはある。

会 長：要保護児童を把握したときに保育所等の連携はどうなっているのか。

事 務 局：要保護児童を支援するために要保護児童対策地域協議会があるが、要保護児童が保育園へ通っている場合は、保育園での状況を確認したり、家庭児童相談員が保育園へ訪問したりと、子どもの状況を確認するために連携を図っている。

事 務 局：幼稚園、保育園で心配な子どもがいる場合には、健診の事前に健康推進課まで連絡をいただき、より詳しく話を聞き様子を確認している。また、乳幼児発達相談があり、発達障がいやその疑いについての告知事業も一部入っている。その告知をされた方が園にいる場合に、その後のフォロー体制や状況説明について連携をさせてもらっている。

- 委員：保育園でも最終的には3歳児健診で診ていただかないと、お願いできるところが中々なくなってしまうので、3歳児健診のときに不安なお子さんについては、前もって保健センターへ連絡をさせてもらっている。その前の状況でも健診に関係なく、状況を伝えて相談もしている。
- 委員：私の場合は心配ごとがあると保健センターへ電話し、色々と教えてもらった。
- 会長：今まで保育園の仕事に長く従事していて、保護者の方がひとりで自分の子どものことを抱え込んで、本当に苦しんでいる様子を見てきて、そういう方は手つなぎで教えてあげないと分からない。この会議を機会に、市の取り組みについて他の保護者の方へも伝えていただきたい。幼稚園ではいかがか。
- 委員：その都度必要に応じて連絡を取り合っている。継続的に行うことが大事。情報交換をしたことで子どもの成長や保護者の感じていることがこのように変わった等の内容を、情報を受けただけでなく結果を返し、その次の支援のためにお互いに共通理解を図っている。
- 会長：他に何かあるか。
- 委員：市が色々な事業を展開している中で、紙媒体で情報が来ることが多いが、紙だと何となく見てすぐ捨ててしまうため、中々浸透していかないのではないか。委員となってどういうことができるか考えてみたところ、今の時代、スマホ、携帯、パソコンが充実しているので、例えばホームページに掲載しても、自分でアクセスしないと情報が得られないことがあるが、一番初めに母子手帳を保健センターへ取りに行く際に、市の情報を配信できるQRコードを作ってください、そこから登録すれば受動的に情報が得られる。母親に初めてなった時は勉強熱心のため、色々な情報を提供していただきたい。
- 事務局：実は、メール配信事業を実施している。妊婦メールとこどもメールというものがある。平成28年度から「子育てガイドブック」というものを配布しているが、その中にもQRコードを入れさせていただいている。こどもメールについては、HPでも情報提供している。妊婦メールの内容については、妊娠中の事業案内、例えば「インフルエンザが流行ってきています」というような感染症に関する緊急な情報が入ったときには、いち早く一斉に配信している。また、こどもメールに関しても、こどもメールを登録してもらえると、お子さんの名前で「～ちゃん」とメールが入り、誕生日のお祝いメールから、各事業についての案内メールまで随時入るようになっている。また、健診の案内についても働いているお母さんが多いため、まずは2か月前、該当

月、当日と3回に分けて、持ち物も含めメールが送られる。予防接種についてもその都度案内メールが送られる。

会長：ありがとうございます。これで、多くの保護者の方に一斉に情報発信してもらい知っていただけるのでは。委員いかがでしょうか。

委員：はい。また、もうひとつずっと思っていたことがある。私はしばらく太田市に住んでいたが、太田市は小学校区ごとに児童館があった。子どもが小さいときにはよく連れて行ったが、一つひとつの児童館が近くにあったため、児童館のはしごをしたり、色々なお母さんと出会い情報交換をしたり、太田市では子どもを遊ばせる場所が多くとても利用しやすい環境だった。館林市に来たら児童館が少なかったので、児童館が増やせないかなと思った。

会長：これから説明がある事業の中にも関係する事業があると思うので、説明を聞いてみましょう。

(9)子育て援助活動支援事業～(6)幼稚園在園児を対象とした一時預かり事業

・こども福祉課、学校教育課より説明

【質疑応答等】

委員：実は今、地域包括ケアシステムを担当していて、市内を8地区に分けて6地区が説明会等を実施している。その中で、民生委員より出た話題が、ひとり親の父子家庭の話で、お父さんが出張で2週間ほど家を留守にしまい、子どもはその間放置されてしまうと、民生委員に相談があったとのことで、子どもがちゃんと登下校できているか等の見守りをしたとのことだった。この件については、ファミリー・サポート・センター事業が対象になるのではないかと思う。今年度は、各保育園や母子保健推進委員を対象に事業の説明を行ったとのことだったが、来年度は民生委員を対象に事業の説明をお願いしたい。

会長：せっかくある事業なので周知をした方が良い。また、最近、館林市でのこども食堂の話が読売新聞に掲載されていた。その話をお願いしたい。

委員：NPO法人の仲間が行っているものだが、こども食堂を西公民館で月1回行っている。併せて勉強の方も少し行っている。また、高根町のあるお店でも月1回ぐらいで行っている。

会長：他に誰か情報をお持ちの方はいるか。子ども達が1人ぼっちでいることがないように、手を差し伸べられる場所があれば市に聞いておいてもらいたい。

委員：西公民館では、毎月第1土曜日に11時と12時に受付があり、子どもは無料、大人は200円。食材やお菓子は、フードバンクからいただく。子どもも大人もおしゃべりしながら一緒に楽しく食事をする。また子ども達の中で学習サ

ポートの希望を持つ子ども達に、高根町にある定食もんじゃのお店「めだかの学校」で定休日に学習サポートを行っている。

会長：皆さんが知っていることを情報共有することは重要と思う。

委員：フードバンクという仕組みは、報道にもあるように皆さんご存知と思うが、館林市にある三松会というNPOが運営しているフードバンクは、日本の中の取り引き量の2番目であり、このことは意外と知られていない。実は、太田市の方にかなり持っていかれている。太田市は社会福祉協議会が中心となって事業を展開していて、三松会が協力してやっている。食べ物に関しては、フードバンクから無料で提供される。もし何かの機会があれば、三松会に連絡していただければ食糧の提供は確保できる。

委員：私たちが三松会を利用させていただいている。ボランティアで毎週土曜日にサロンを行っていて、そこで利用するために三松会に登録しているが、最近は今お話があったように、太田市に大分持っていかれ、ないことがある。先程お話のあった子ども塾のように勉強を教えてくださいというのは、良いと思う。

委員：私自身、子どもが小学生で学童にお世話になっていて、フードバンクからいただいたパンやお菓子をいただくことがある。子どもを18時過ぎに迎えに行くので子どももお腹がすかず助かっている。

また、夏休み中、学童に入っていない子どもは、どうしても家にいたり、どこかに遊びに行ったりすることになる。昔はそういうことが当たり前の時代だったが、今は働いているお母さんが多く子どもが一人になってしまうと危ない。最初は学童に入ったが、小学4、5年生くらいになると、学童に行きたくなくなってしまい、夏休みに子どもを預ける場所がないと困っているお母さんがたくさんいる。その場合、おじいちゃん、おばあちゃんに頼るしかない家もあれば、子どもが一人で家にいる家もある。できれば、先程の児童館の話にもなるが、子どもがいる場所があれば助かると思う。

会長：放課後児童クラブの関係では、委員いかがでしょう。

委員：放課後児童クラブは、日本全体ではいわゆる待機児童という問題がクローズアップされているが、それは横浜市や東京都の話になる。群馬県の実態では、国がいう待機児童はほとんどゼロであるが、そこが話題になり、前年度の4月に待機児童を解消していこうという集まりの中で、ただ子ども達を預かって安全に過ごすだけでなく、質の改善として子ども達の成長を一番に考えるように言われている。運営する側からすると、夏休み期間中だけお預かりするということは、相対的に質を下げることに繋がるため、私どものクラブではお預かりしない。定員もほぼ満員のため、その余裕もない。前々からこの席で言っているように、ある条件でみると待機児童ではない隠れ待機児童に

スポットを当てて、対策を行っていく必要がある。

委員：児童館の話の関連になるが、市内には確かに3館しかないが、5つの公民館で子どもを支援する「すくすくサポート」というものを行っている。今後、市がそういうものを見直しを行い、子どもを見守る場所を作っていく必要がある。

(5)地域子育て支援拠点事業～(2)延長保育事業

・こども福祉課より説明

【質疑応答等】

会長：児童館のことについては13事業以外のことになるかと思うが、次回の会議でお話いただきたい。

事務局：次回、回答させていただく。

委員：地域子育て支援センターで相談を受けた内容について、どういうふうに分けられて市のどこの部署で解決に至っているのか。当然、個別に対応しているかと思うが、それが重なった場合、共通の課題が見出されるのではと思うが。

委員：地域子育て支援センターは、私立保育園に2つ、公立保育園に2つ、また社会福祉協議会に「わくわくらんど」の計5つあるが、担当者同士の会議や支援連絡会議があり、横の繋がりを大切にしている。

会長：支援連絡会議はどういうものか。

委員：主任児童委員も参加している。色々な課題がある中で、保育園、幼稚園、相談支援センター、主任児童委員等で会議にて議論を行っている。

(1)教育・保育 続いて、議事(2)平成29年度教育・保育施設の利用定員の設定について

・こども福祉課、学校教育課より説明

【質疑応答等】

会長：今現在では、公立幼稚園に実際何人いるか。

事務局：公立幼稚園全体で370人程度いる。

会長：というと、利用定員740人に対して370人しかいないことになるがいいのか。

事務局：利用定員740人に対し370人で、今現在50%を切っている。49%ぐらいの充足率となる。

会長：その後どうするかまでは先に進まないが、今現在そのような状況で公立幼稚園として頑張ってくださっていると理解して前に進めていければと思う。

(3)来年度の予定について

・こども福祉課より説明

(4) その他

【質疑応答等】

委員：館林市で子どもを育てて、春から小学校1年生になるが、私も里帰り出産をした身で、母子手帳をもらいに行くところから支えられて、里帰り出産のときも私が電話して相談したら、直接自分の実家がある役所の部署に話していただき、とても助かった。

ファミリー・サポート・センターにも登録し、子育て支援センターにも毎日のように通っていたことを思い出す。とても支えられて次の段階に進んで、今度は学童のことも検討しながら子育てをしていくのだなと感じる。このように全体で色々な事業を連携しながら、子育てについて支えてもらい、ありがたい思いでいる。

委員：認定こども園の立場で話すと、今現在、認可定員が290人で在園児は302人である。過去に最も多い時には360ぐらい在園していたが、やはり人口減少の影響であり、少子化のスピードが速いことに驚いている。

館林市の人口がついこの間まで8万ちょっとあったのが、7万7千台に減ってしまった。これは概略4%の減少になる。全国的にはパーセント的には低いですが、私は館林市に80年以上お世話になっていて、大変住みやすい良いまちだと思っているが、人口減少が大きく、大変残念に思っている。そこで、市関係者にお願いだが、群馬県も人口減になっているが、増えているところもある。一つ大きな特色を打ち出して、市だけではなく、官民一体となって市の発展、人口増加を図れないものかと考えている。

県内でも渋川市が、ついこの間、給食を全額無料ということで3億円ばかり予算をつけたよう。館林市も何か一つの目玉を子ども達のためにやっていただければと思う。人口が減ると、幼稚園、保育園が困るということだけではなく、全ての職種に大きな影響があると思う。ぜひそういった点でお願いしたい。

会長：子ども・子育て会議がより豊かになると、委員がお話された流れになると思う。

4. 閉 会